

第1学年 図画工作科学習指導案

図画工作科, 美術科研究室

題材 むしさんといっしょに

目標

- お話「むしさんといっしょに」から思いを広げて絵に表すことを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- お話から想像を広げ, 虫や場面の様子, 色について思い浮かべることができる。
(発想や構想の能力)
- 表したい虫や場面の様子を, ペンやパス, 水彩絵の具などの描画材で絵に表すことができる。
(創造的な技能)
- 絵を見せてお話をしたり友達の話の聞いたりしながら虫の想像の世界を楽しむことができる。
(鑑賞の能力)

指導観

- 本学級の児童は, 「ペタペタペタン」の造形遊びの学習を通して身の回りにある材料を, 体全体の感覚を使って写し出す学習をした。そして, 色と色との重なりやの面白さや, 偶然にできた形の美しさなどを体感することができた。また, できあがった作品を鑑賞し合うことで, 自分の作品にはない表現のよさに気付いたり, 見ることに関心をもったりすることができた。しかし, 「絵に表す」内容はこの題材を行う前は未経験であった。日常生活では絵を描くことは好きであるが, 画面全体をとらえて描いたり, 対象物の特徴をとらえて描いたりすることはできていない。

また, 線描きに戸惑い, 絵に描くことに苦手意識をもっている児童もいる。また, 彩色する際は, 色の感じを楽しみながら表現を工夫するまではできていない。このように, 形や色の面白さなどを楽しんで活動をしてはいるものの, 描きたいものに合わせて, 描画材を選び表し方を工夫するところまでには至っていない。

指導の考え方

本題材の指導にあたっては, まず, お話に出合う活動では, 児童が興味をもってお話の世界に浸れるようにする。児童が身近に感じている虫を主題にすることで, 日常の生活経験と重ね合わせ思いを広げることができると考える。また, 読み聞かせでは, 波の効果音, トライアングルやバーチャイムを鳴らすなどの場の工夫, 読み方の工夫をする。大小や上下関係, 場面による時間の流れや空間の広がり, お話の中に盛り込みながら, 発想を広げるようにする。そして, 虫と一緒にどんな乗り方でどこへ行きたいか, 考えを交流したり, ヒント資料から思いを広げたりしながら, 描きたい場面をはっきりさせていく。

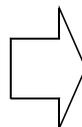
次に, 線描きする活動では, 虫をいろいろな視点から描くことができるように, ヒント資料を提示する。横向き, 正面向き, 真上から見た資料などを提示し, 場面にあった線描きができるようにする。また, 虫を描く場所, 大きさを画用紙に指描きをして, 自分の思いをはっきりさせた後, 線描きをする。また, 自分はどこに描くか, 周りには何があるか, など児童の想像を広げ, 細かいところも描き進めていく。彩色する活動では, パスの特性を生かした表現ができるよう, 課外の時間にてんてんぬりやぴんぴんぬり, ごしごしぬりなど児童にパスの使い方を経験させておく。そして, パスの混色やぼかしなどのヒント資料を提示し, 彩色が自分の表したい思いに近づくことができるようにする。また, 描きながら新たに思いついたことも描き加え, 表現させていく。周りの様子には, 共用の水彩絵の具を使用し, タンポや大筆で広い空間の表現を進めていく。この際, 児童との対話や活動内容を見取り, 材料提供を行う。

最後に, 鑑賞する活動では, 表した場面についてお話をする時間をとり自分の思いを友達に伝えたり, お互いのよさに気付いたりすることができるようにする。

指導事項と題材の関連表

			教科書題材
	指導要領解説 (平成11年)	幼稚園教育要領 (平成10年)	1・2上 P24 がんばってほしのかたちをつくるぞ
主 題	○ 表したいこと、つくりたいものを自分の表現方法でつくりだす喜びを味わうようにする。	○ 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。	○ ぞうさんがクッキーを作る話から、思いを広げ、夢の世界を絵に表す。
構 想	○ 形や色、材料などをもとに豊かな発想をする。 ○ 体全体の感覚や技能などの力を十分に働かせる。	○ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 ○ 絵本や物語などに親しみ興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。 ○ 生活の中で様々な音、色形、手触り、動きなどに気付いたり楽しんだりする。	○ 話の中心であるぞうさんを画用紙の真ん中に描くことで、主題をはっきりとさせている。 ○ ものどもの重ねて描かず、ものの形一つ一つを大事にして話して描いている。
材 料 ・ 用 具	○ 表したいことに合わせて、厚紙、クレヨンパスなどの身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使い絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりすること。		色画用紙、サインペン、 絵の具
表 現 方 法	○ 表したいことを進んで見付け、好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだり、つくり方を考えるなどしながら思いのままに表すこと。 ○ 表し方をいろいろ試しながら思いのままに表すこと。	○ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉による感覚が養われるようにすること。	○ サインペンで線描きをしている。 ○ 好きな色や感じた色を作りだし、彩色している。 ○ 窓ガラスの透き通った様子が表れるように、白の絵の具の上から水色を塗っている。

1・2上 P24 ながいっぼんのみち	1・2上 P24 大きなかぶ
○ 自分の好きな動物と、 どんな所へ行きたいのか 発想をふくらませ、楽し んで絵に表す。	○ 国語の学習を想起し、お 話の中で一番印象に残った 場面を形を切り取って貼る など、表現を工夫して表 す。
○ 長い道を画面の端から 端までつなげていくこと により、時間的な経過を 表すことができる。	○ 主題をはっきりさせるた めに、かぶが画用紙の3分 の1ぐらいの大きさになっ ている。
○ 長い道の上は空の様子 を道の下は地面の様子を 表し、一本の道を境目に して上下関係を表してい る。	○ 地面を曲線で描き、猫や ネズミを小さく描いてい て遠近感を表すことができ ている。
色画用紙、パス、 絵の具	色画用紙、パス、 サインペン
○ 木の幹を混色したり、 動物を力を入れて描いた りと、パスを工夫して彩 色している。	○ かぶや人物を色画用紙や 和紙などで作り、はりつけ るなど工夫して表現してい る。
○ 様々なパスの色を使っ ている。	○ パスを重ねぬりして、土 の感じを出している。
○ ローラーの太く長い寒 色系の道の上から、明る い色のパスで線描きして いる。	○ 人物をたくさんの色のパ スでぬっていて、色合いが 美しい。



本題材
むしさんといっしょに
○ お話「むしさんといっし ょに」から思いを広げて、 絵に表すことを楽しもうと する。 「バッタさんとそらのたび」 「かまきりさんとなわとびを したよ」
○ いろいろな乗り方を考え 大好きな虫とどんなところ へ行きたいか想像を膨らま せ、表す。
○ 虫とどんな会話をしよう かなどと想像をふくらま せ、虫や場面の様子、色に ついて具体的に思い浮かべ ることができる。
画用紙、スケッチペン、 コンテ、サインペン、 水性ペン、水彩絵の具
○ 表したい虫や場面の様子 を用途にあった描画材を選 び、線描きすることができる。
○ パスを重ねぬりしたりぼ かしたりしながら、パスの 技法を工夫して表現する。
○ いろいろな色を使いなが ら表す。
○ タンポや大筆などを使い 水彩絵の具で周りの様子を 工夫して表す。

小学校第1学年題材「むしさんといっしょに」 指導計画（全6時間＋課外）

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
造形 イ ム	<p>1. 公園で見付けた虫を大きな紙にパスで描く。</p> <p>(1) パスで線描きし彩色する。</p> <p>(2) 友達の作品を楽しく見る。</p> <p>2. 粘土をいろいろな形に加工し、見付けた虫やお気に入りの虫をつくる。（課外）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 虫をつかまえた感動を簡単な絵に表そうとする。（関） 画面全体をとらえて絵を描こうとする。 友達の作品の表したかった気持ちを聞いたりするなどして楽しく見ること。（関） いろいろな粘土の形をつくり、積んだり並べたりしながら思いにあった虫をつくろうとする。（創） 	<ul style="list-style-type: none"> 虫を捕まえてうれしかった気持ちや、虫に触って発見したことなど、自分の思いが表れるように大きな紙に表すこと。 表現方法 形をとらえるために、粘土で虫を立体的に表すこと。 表現方法 	<ul style="list-style-type: none"> 虫かごをおいたり、虫を大きく引き延ばした写真やクイズなどを掲示したりして生き物を身近に感じることができる教室環境にしておく。
お話に出合い想像を広げる ペンで線描き	<p>1. 「むしさんといっしょに」の話に出合う。</p> <p>2. 虫の特徴を考え線描きをする。（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興味深く話を聞き、絵に表したいという思いをもとうとする。（関） 表したい虫や、一緒に虫と過ごす場面を思い浮かべる。（発） 画用紙のどの位置に虫を配置すると自分の思いにあった表現ができるか考え、絵を描こうとする。（発） 	<ul style="list-style-type: none"> お話から思いを広げ、楽しく表現活動をすること。 主題 お話と日常生活とを関連させながら、絵に表したい思いをもつこと。 構想 ヒント資料を参考にしながら、画面の上下にものを位置づけて、表すこと。 主題 動きのある線が描けるように、ペンの持ち方や力の入れ方変えながら、ペンで線描きをするこ 材料・用具 	<ul style="list-style-type: none"> 虫から届いた手紙という設定で話を読み聞かせ児童の興味関心を喚起する。 児童が想像しやすい自作のお話を用意する。 鳥の鳴き声、波、雷の効果音を準備し、児童が、場面の様子を思い浮かべやすいようにする。 鈴、トライアングルパーチャイムを準備し、場面の転換を図る。 虫と触れ合ったときの感触、色、形などを思い浮かべることができるような発問をする。 表したい虫（主題）がはっきりするよう、画用紙の上で十

する				分に指描きをさせた後線描きする。
	<p>3. 表したい場面の線描きをする。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい虫の角や羽, 足など細かい部分の線描きをペンの太さを考ながら描こうとする。 (創) ・周りの様子や人物を自分の想像の世界に近付けながら線描きすることができる。 (発) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 虫と自分との関係や周りの様子も, ペンで細かく描き進める活動提案。 材料・用具 表現方法 ○ 体験や関心をもとに描きながら新しく思いついたことも描き足していくこと。 主題 	<ul style="list-style-type: none"> ・サインペンやスケッチペンなど描きたいものに合わせて材料提供をする。 ・児童との対話を通して絵に表したい想像の場面を読み取り支援していく。
パスや水彩絵の具で彩色する	<p>4. 自分の思いが表れるよう表し方を工夫し, パスなどで彩色する。 (2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等を参考にしながら, 自分の思いにあわせて彩色することができる。 (創) ・パスや色鉛筆などを混色して自分の色を創りだし, 楽しみながら描き表すことができる。 (創) ・描きたい背景の様子に合わせて共用の水彩絵の具を選び, 彩色することができる。 (創) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ パスの色が濁らないように, パスの先をちり紙で拭いてから彩色すること。 材料・用具 ○ 細かいところは, 色鉛筆で彩色したり, パスの使い方によって表現を工夫したりすること。 表現方法 ○ 表したい背景の様子に合わせて, 黄, 赤, 橙, 水色, 青の共用の絵の具から思いにあった色を選び, 彩色すること。 表現方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・色づくりやパスの技法の資料を提示し, いろいろな表現活動が展開できるようにする。 ・主題がはっきりとできるように, 彩色を工夫している児童の作品を紹介する。 ・描きたい背景の様子に合わせて, タンボや大筆などを準備する。
	<p>5. 場面の様子に合わせて, 共用の水彩絵の具で彩色する。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品を見せたり友達の表したかったことを聞いたりして楽しんでいる。 (鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や友達が描いた作品の面白さに気付き見ることに関心をもつこと。 主題 ○ 友人の作品の表したかったことや絵のお話を聞き楽しく見ること。 構想 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品をすぐに見られる場の工夫をする。 ・お互いのよさを共有できる活動を提案する。
作品を鑑賞する	<p>6. 自分の作品についてお話をし, 友達の話を聞いて鑑賞会をする。 (1時間)</p>			

本時目標

- 「むしさんといっしょに」のお話を聞き、
場面の様子を想像している。
(発想や構想の能力)
- どんな虫と何をしている場面なのか、想像
したものを線描きすることによって場面の様
子を楽しく表すことができる。
(創造的な技能)

授業仮説

題材との出合わせ方を工夫すれば、自分の生活経験から連想し、思いを広げながら楽しく絵を描き出すことができるだろう。

- 場面の様子を楽しみながら思い浮かべることができるように読み聞かせの場の工夫をする。
- 一人一人の児童との対話を大切にしながら、場面の様子を楽しく線描きすることができるようにする。

準備

- スケッチペン ○ ペン ○ 4つ切り画用紙
- 虫、背景のヒント資料 ○ 評価補助簿

本時の指導と評価の考え方

本時は、「むしさんといっしょに」のお話を興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。そして、お話の内容と日常生活での行動や体験とを結びつけながら、自分が表したいことを線で表現していくことをねらう。

このねらいを達成するために本時では次のような手立てを計画した。

まず、場面の様子を豊かに想像することができるように、朝の鳥たちの鳴き声を聞かせたり、楽器を使って場面転換を図ったりするなど読み聞かせの工夫をする。そして、児童の持つイメージを膨らませ、絵を描く意欲を発揮させることができるようにする。絵を描きたいという気持ちが高まれば、持てる力を十分に働かせ、思いのままに描き表すことができると考える。

次に、想像の世界を広げ画面に表す場面では、

具体的な資料を提示したり、対話したりしながら草むらの中、雷や嵐、海、夜空など自分の表したい場面の様子を具体的に想像させる。虫の形ををどのように描いたらいいのか戸惑っている児童には個別に虫の足や体の特徴などをヒント資料として提示する。また、場面の様子が思い浮かばない児童には、もう一度お話を読み聞かせ、イメージが思い浮かぶようにする。そして、表すものが決まったら描きたいものを画面のどこに、どのような向きで描くのかを考え、画用紙の上で指描きをする。画用紙と向き合う時間を十分にとり、自分の思い描いたイメージが指描きにより明確になったところで線描きに入る。描画材はスケッチペンの太さを生かした線描きを基本とするが、細かいところを描き表したいという児童には、水性ペンやソフトペンを用意しておき、一人一人の思いに合った表現ができるようにする。

最後に、本時の鑑賞の時間を設け、お互いの作品を見合いながら、頑張ったところや、表現の面白いところなどに気付くようにする。

評価にあたっては、評価の観点をもとに評価基準を明確にし、評価補助簿を作成して、個に応じた助言や資料の準備をしていきたい。また、児童の活動や作品をもとに対話や言葉かけによる支援を行っていき、児童の表したい思いを見取りながら次時へと学習意欲をつなげていこうと考える。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学 習 活 動	学 習 内 容		指 導 方 法
		具体の評価規準	指 導 事 項	
導 入	<p>1, 本時の活動について知る。 (1) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>めあて むしさんといっしょにすごしているようすを, えにあらわそう</p> </div> <p>(2) 「むしさんといっしょに」の話聞く。</p> <p>(3) どんな場面がお話にでてきたか交流する。</p>	<p>・興味深く話を聞き、絵に表したいという思いをもつことができる。</p> <p>・表したい虫や、一緒に虫と過ごす場面を思い浮かべることができる。</p>	<p>○ お話をもとに、虫との夢の世界を絵に表していく学習であることを話し、活動に見通しを持たせること。</p> <p>○ お話は1度しか読まないことを告げ、目をつぶって静かに聞くようにし、話に集中すること</p> <p>○ どんな虫を絵に描くか、はっきりとイメージすること。</p> <p>○ 児童の発言を黒板に板書しながら整理すること</p> <p>○ お話の続きの場面を自由に想像して絵に描いてもいいことを話すこと</p> <p>○ 日常の生活体験と結びつけながら、こんなことができたらいいな、こんなことをしたいな、と思いを膨らませること。</p>	<p>○ 虫かごを置いたり、虫を大きく引き伸ばした写真や虫クイズなどを掲示したりして、生き物を身近に感じることができる教室環境にしておく。</p> <p>○ 虫取りをした経験を思い起こさせる発問をし、より虫との関わりを身近に感じさせながらめあてを提示する。</p> <p>○ 虫から届いた手紙という設定で話を読み聞かせ児童の興味関心を喚起する。</p> <p>○ 読み聞かせを行う際は効果音などを流し、臨場感を出す。</p> <p>○ 虫と触れ合った時の感触、色、形などを思い浮かべることができるような発問をする。</p> <p>○ どんな虫といっしょに何をするのか思いが明確になるように個別に対話する。</p>
展	<p>2, 虫の形や周りの様子を指描きする。 (1) 画用紙の上で指描きをして、虫</p>	<p>・伝えたい気持ちが表せるように描いている。</p> <p>・自分が表したい物が絵の中心と</p>	<p>○ どの視点から見た虫を描くのか考えること。</p> <p>○ 画用紙に指描きをすることで、描こうとする場面の様子をより明確にすること。</p>	<p>○ 虫の形の参考例（横向き、ななめ向き、正面向き、真上の方向）を提示する。</p>

開	<p>の大きさや形などイメージをはっきりさせる。</p> <p>3, 虫の体の特徴を考え線描きをする。</p> <p>(1) 頭やお腹, 羽足など今までに虫と触れ合った経験を思い返しながらスケッチペンで線描きをする。</p> <p>(2) 細かいところを書き表すときは水性ペンなどの描画材を選んで線描きをする。</p>	<p>なるように、大きさや位置を考えることができる。 発構</p> <p>・虫と自分との関係や, 周りの様子を想像しながら楽しく線描きする。 技能</p>	<p>○ 主題がはっきりするようにこだわりをもって線描きすること。</p> <p>○ 生活体験と重ね合わせながら描くこと。</p> <p>○ 自分の表したい気持ちが絵に表れるように描く位置や大きさを考えて描くこと。</p> <p>○ 自分の表現方法にあった描画材を選ぶこと。</p>	<p>○ こだわりのあるところ(目や羽, 足など)から描いてみようと言言する。</p> <p>○ 活動が停滞している児童には, 対話をしながらその子がどのような場面を描きたいのか聞き, 思いにあった表現に近付くことができるようにする</p> <p>○ 羽の模様や周りの様子など細かいところはスケッチペンの細い部分を使って描いたり, 水性ペンを使ったりするなど材料提供をする。</p>
終末	<p>3, 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) できたものを見たり, 頑張ったことや楽しかったことを話したりする。</p> <p>(2) 活動のふり返りをし, 次時の活動の見通しをもつ。</p>	<p>・友達の作品のよいところを楽しんで見ている。</p> <p>・自他の表現のよさに気付いている。</p>	<p>○ 作品のよいところを楽しんで見ること。</p>	<p>○ 自分や友達の作品のよいところや面白いところに気付くようにするために, お互いの作品を見ることができるように掲示する。</p> <p>○ 次時への学習意欲へつなげるために, 児童の思いに共感したり, 表現のよさを認める言葉かけをする。</p>